

消化器内科

1. 診療科紹介

初期研修で身につけた基礎の上に、消化器内科を志望する者は消化器内科医としての修練をする。卒後3年から5年までの3年間の研修で多くの患者を担当するとともに、検査・治療の手技を習得し消化器病関連の専門医を取得するための基本を研修する。また、他科を志望する者は、初期研修よりも踏み込んで幅広く消化器関連の疾患を担当し、消化器内科疾患の検査・診断・治療も経験する。

教育体制 研修責任者 菅原 和彦（日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医）
スタッフ 常勤医師 4名、後期研修医 1名

施設認定 日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設

2. 研修内容

予定

(消化器内科医志望の場合)

- 1年目（後期研修1年目）消化器の主な疾患の経験および学会発表および
胃透視（週1コマ、約10件/週）、腹部超音波（週1コマ、約5件/週）
上部消化管内視鏡（週2コマ、約10件/週）、下部消化管内視鏡（研修約半年後から週1コマ、約3-5件/週）の習得、拡大内視鏡、経皮経肝胆嚢ドレナージ、経皮的肝生検など
医員の指導の下にこれ以上の件数を行うことも可能です。
- 2年目（後期研修2年目）1年目の研修内容（担当検査件数は増えます。）
および外来（週1コマ）
逆行性膵胆管造影、血管造影、内視鏡的止血術、ポリープ・腫瘍の内視鏡的摘除(EMR)など
- 3年目（後期研修3年目）1、2年目の研修内容および
ポリープ・腫瘍の内視鏡的摘除(ESD)など
- 上記の研修内容はあくまで目安です。個々の能力に応じて無理のない研修をしていただきます。

(他科専攻志望の場合)

- 期間・時期などにより内容は応相談
ニその他頻度の高い疾患としての経験および知識の習得

研修項目

- ◎ 消化器疾患に関する診察方法
消化器の主な疾患の特徴の熟知および検査値の解析、診察法を身につける
個々の疾患特有の症候を理解し、評価できる
- ◎ 消化器疾患に関する検査方法
上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査を行い、所見の記載、診断ができる
CT, MRI、腹部エコーを主とする画像診断を評価できる
- ◎ 主な消化器疾患の診断
消化管疾患：食道癌、逆流性食道炎、Mallory-Weiss 症候群、食道静脈瘤

胃癌、胃十二指腸潰瘍、ピロリ感染症、非上皮性消化管悪性腫瘍
大腸癌、炎症性腸疾患、イレウス、感染性腸炎など
肝臓疾患：急性肝炎、慢性肝炎、自己免疫性肝炎、**原発性胆汁性肝硬変**、
非アルコール性脂肪性肝炎、肝硬変、肝癌など
胆膵疾患：胆嚢炎胆管炎、胆石総胆管結石症、胆嚢癌、膵炎、膵癌など

◎ 主な消化器疾患の治療

消化器疾患の急性期の治療ができる
消化器悪性疾患の予後を推定し、治療方針が立てられる
内視鏡治療を行える
薬物療法、免疫学的治療法について理解し、実施できる

4. 週間予定

火：17:00-18:00 内視鏡検討会
木：17:00-18:00 病棟回診、抄読会
月一金：消化器検査および病棟業務

5. 年間予定表

日本消化器病学会総会、日本内視鏡学会総会、日本肝臓学会総会 5、10月開催
日本肝臓病学会東部会 5月頃開催
日本消化器病学会、日本内視鏡学会関東地方会 年4回開催
その他、消化器の各専門分野の学会

6. メッセージ

消化器科はともすれば手技にかたよりがちなところがありますが、当科は手技にとどまらず、学問として消化器疾患を理解しその診断および治療を可能とする医師となる手助けをします。日々の臨床業務を行うだけでなく学会活動等個々に課題を与え、めりはりをつけて研修をしていただきます。研修終了後は梓にもよりますが、希望者には当科にて引き続き研修を行うこと、関連大学の医局に紹介することも可能です。